

銅賞

幸せを運ぶ妖精の未来を願って

横須賀市立久里浜中学校一年

臼井花名

アンパンマンと犬が大好きな二才の男の子「はるくん」。母方の祖父母の家に行くと元気に遊び回っている彼に会う事ができる。そんな「はるくん」の母親は、今二十才の私のいところである。いところは結婚していない。なのではるくんには「パパ」がいない。親子二人で実家や祖父母の家に近いアパートで暮らしている。ママ、じじにばあば、ひいじいにひいばあちゃん、おばちゃん達、とたくさん家族に囲まれ愛されているはるくんは毎日元気に大きくなっている。

いところは十七才の時にはるくんを出産した。産むという選択に関して、本人家族共に様々な迷いがあったようだ。初めは生まれた子どもを里親にたくす事も考えていたらしい。しかしやはり、いところは自分で育てていく事に決めた。そして両親である私の伯父と伯母もこの選択を受け入れてくれた。年令的にいところの双子の妹や一年下の私の姉、周囲の友人は勉強や遊び、楽しい学生生活を送っている。うらやましく思う事もあるだろう。でも、いところが自分で選んだ生き方だ。家族や周りの協力を得ながら、今も子育て生活を頑

張っている。

私はこの夏、生まれたばかりの赤ちゃんを殺害したというニュースを三件ほど耳にした。赤ちゃんの親は高校生カップルや若い女性であつた。「育てられない」や「自分の将来が自由にならない」などそんな理由かもしれない。もちろん泣く泣くの事であつただろうが赤ちゃんの大切な命と未来は親の勝手によつて消されてしまったのだ。

もしかしたら私のいところも彼らと同じ思いを抱いたかもしれない。だが、幸運な事にいところには相談ができ手助けをしてくれた親や家族、そして病院の存在があつた。その病院は、出産に対して様々な悩みを抱える女性を産前産後に渡つて心身共にサポートしてくれる病院であつた。自分で育てる事が無理な時でも里子里親制度が整つていて赤ちゃんの幸せを約束してくれる病院でもあつた。また、はるくんは生後十ヵ月から保育園に通っている。若い母親にとっては保育園の先生はとても頼りになる存在だと思う。そして預けている間には仕事もできるし勉強を再開したりすることもできる。はるくん親子は周囲の優しい助けを受けながら、幸せな毎日を今、過ごす事ができているのである。

自分の赤ちゃんを不幸にしてしまった人達はその時、周りに相談

できる人がいたのだろうか。報道される際、悲しい事実を伝えるだけでなく、悩みに対応してくれる相談先やサポート機関についても一緒に報道してくれればいいのに、と私は考える。そのような情報を必要とする人がいるかもしれないし、それによって助かる命があったかもしれない。

「誰にでも生まれて幸せになる権利、愛される権利がある。そして親は子どもを愛し守り育てていく義務がある。」これはよく見聞きする言葉である。あたり前だが大切な事を意味する言葉だ。しかし、育児放棄や児童虐待など多くの事例がニュースで報道される今日ではあたり前の事ではなくなってしまうているのかもしれない。もちろんそんな親は少数であろう。しかし、そのような親を責めるだけでは何の解決にもならない。小さな命を守り大切にするには、親が子どもを育てるという当然の考えにプラスして「社会みんなと一緒に子どもを育てていこう」という考えが今以上にもっともっと広がっていけば良いなと私は思う。他人に任せっきりは良くないが、手助けをしてほしい、話を聞いてほしい親はたくさんいるはずだ。そして赤ちゃんや小さな子どもは一人で生きていくことはできない。たくさんの温かい人の目や人の手によって小さな命が安心して幸せな未来へとこれから成長していける世の中である事を、あり続け

る事を私は願っている。

はるくんが生まれてから、伯父も伯母も孫を世話する事でより明るくより活発に過ごすようになった気がする。八十五才になる私の祖父に至っては、普段はあまりしゃべらず動かずに静かに過ごしている日々であるのだが、はるくんが遊びに来た時には笑顔が増え、活気が戻ってくるようである。

赤ちゃんが笑うと家族も自然と笑っている。赤ちゃんの笑顔や仕事は周りの人達に元気と幸せを与えてくれる。体は小さくても赤ちゃんはとても大きな力を持っていると思う。そんな大きくて素晴らしい力を持つ小さな命は大切にされなければならない。そして、これからもずっと家族や社会のみんなと一緒にあって守っていかねければならないと私は強く思う。そして、今度ははるくんや街で会った赤ちゃんから「幸せの笑顔」をもらった時、私も最高の笑顔で幸せのお返しをしようと思うのであった。小さなかわいい妖精達の未来を願って……。